

09

September
2025

[月刊] キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年9月1日発行(毎月一回1日発行)第813号

出会い・本・人

私の人生を変えた一冊の「触媒」 山崎ランサム和彦

特集シリーズこの三冊!

聖書から生まれた物語ならこの三冊! 鈴木結生

本・批評と紹介

小林よう子編 教会は初めてのあなたへ 田中伊策

渡辺正男著 老いをどう生きるか 棟居 勇

江口再起著 ルター入門 高村敏浩

大頭真一著 わたしを誰と呼ぶか 鈴木道也

ルター研究所編 ルター研究 宮本 新

岡山孝太郎著 バラバは、死なず! 横山 穰

森島 豊、伊藤 悟編

日本の教育政策とキリスト教学校 嶋田順好

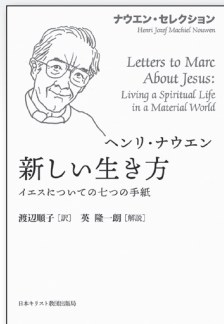
及川 信著 人間とは何であるか 渡邊洋子

トーマス・F・トランス 著/原田浩司訳 主の晩餐の奥義 関川祐一郎

◆ 近刊情報

◆ 書店案内

20世紀を代表する霊的指導者ナウエンによるキリスト教入門、初邦訳！



ナウエン・セレクション

2025年8月20日刊行予定

新しい生き方

第7回
記本

イエスについての七つの手紙

ヘンリ・ナウエン 渡辺順子 訳 英 隆一朗 解説

ナウエンらしい、わかりやすさと深さを兼ね備えた、キリスト教入門の名著。現代の私たちにとって、イエス・キリストとは誰か、信仰生活とは何かを手紙の形で説き明かす。長年教会生活を送ってきた方も、キリスト教は初めてという方も、ぜひどうぞ。 ◆四六判 並製・160頁・定価2,200円

イエスの死の意味

旧約の犠牲祭儀から読み直す

C.A.エバハルト 河野克也 訳

教会ではイエスの死は「贖い」であったと語られる。では、神は自らの子を犠牲として自分に献げさせたのだろうか？「贖い」に関する疑問を、旧約の犠牲祭儀を手がかりに鮮やかに解きあかす快作。

◆A5判 並製・160頁・定価3,300円



2025年8月20日刊行予定



平和を受け継ぐ者に

戦争証言・使命・祈り

奥田知志 編

2025年8月25日刊行予定

広島、長崎、沖縄、引き揚げ、本土空襲、宗教弾圧……『信徒の友』に掲載された戦争体験者のこれらの証言、平和への思いをどう読み、応え、歩み出すか。“戦後80年”の今、共に考えたい。 ◆四六判 並製・144頁・定価1,650円



私の人生を変えた一冊の「触媒」

山崎ランサム和彦

本との出会いについて書くのは難しい。良書との出会いは数多く、これまで出会った多くの本によって今の自分があるのは間違いない。けれども、自分の人生を決定的に変えた本を一冊（あるいは二冊でも三冊でも）挙げよと言われると困ってしまう。今の自分はこれまで読んできた多数の本の総体によって形成されており、どれか一つの本が突出して影響しているわけではないからだ。

ただ、その本自体の内容や自分への思想的影響の多少とは別に、その本と出会った状況やタイミングによって、結果的に自分のその後の歩みを大きく変えるようになった——そんな本との出会いはある。ここでは私にとってそのような「触媒」的役割を果たした本について書いてみたい。

今から二〇年近く前のことになるが、米国留学の終わり近く、シカゴ郊外の神学校で博士論文の口頭試問を無事終えた私は、すぐにキャンパス内の家族寮に戻ることはせず、図書館に向

かった。それまでの数年間、新約聖書のルカ文書にまつわる研究に明け暮れていた私は、ようやくその重荷から解放され、とにかく自分の専門以外の本を読みたいと思って、あてどなく書架の間を歩き回ったのである。

その時ふと目に留まったのが、メソジスト派の神学者トーマス・C・オーデンの著書 *After Modernity . . . What? Agenda for Theology* (Zondervan, 1992) であった。私は魅せられたようにその本を借り、自宅に持ち帰って貪るように読みふけた。これが私と復古正統主義 (paleo-orthodoxy) との出会いであり、それまで自分が属するプロテスタント福音主義の信仰に漠然とした物足りなさを感じていた私が他教派の神学や霊性の伝統に興味を広げていく契機となった。そのきっかけを与えてくれたこの本との出会いに、私は今でも神に感謝している。

(やまざきらんさむ・かずひこ＝聖契神学校教務主任)



▼シリーズ この三冊！

聖書から生まれた物語ならこの三冊！

鈴木結生

(すずき・ゆうい…作家)

ノーベル賞作家ジョン・スタインベックは、『アーサー王と気高い騎士たちの行伝』（多賀谷悟ほか訳、大阪教育図書、二〇〇一年）の序文で、こう書いている。

「聖書をわたしは肌を通して吸収した。わたしの叔父たちはシェイクスピアを発散したし、『天路歷程』は母の乳と混ざっていた。（中略）聖書とシェイクスピアと『天路歷程』は万人のものである」。

生涯のベスト3を選ぶなら、私はやはりこの三冊にするだろう。生まれた時から、聖書は私の人生に織り込まれていた。牧師である父の説教を通して、母の賛美歌を通して、日曜学校の先生たちの教材——絵本は紙芝居は勿論のこと、本物のうずらと手作りマナ、ビニール袋のヨナごっこ、紙バックを繋げた等身大の十字架などを通して、私は聖書に書かれたことを本当だと知った。二〇一一年の震災のあと、仙台から

やってきたキリスト教書店の移動販売車で買った、青いジッパー付の小型聖書が今に至るまでのマイ聖書である。一年で通読し、爾来何度もあちこちに蛍光鉛筆で線を引き、書き込みした跡が残っている。

本に関するあらゆるランキングの一位が不動だから、今度はそれに次いで読まれた、あるいは、それに次いで有名な本を読む、というのが、私の読書歴となった。ダンテの『神曲』、ゲーテの『ファウスト』、それにシェイクスピアと出会ったのは小学六年生の頃。『神曲』を通して、W・ブレイク、J・L・ボルヘス、大江健三郎らと出会った。『ファウスト』はそれをテーマに一冊の本を書いてしまった。シェイクスピアは目下苦闘中の修士論文のテーマである。とはいえ、自分にとつ

て文学的出発点となった一冊といえ、私は迷わずジョン・バンヤン『天路歷程』を採る。

そもそも、私の考えでは、文学とは一つの樹のようなものだから、その根っこである聖書から生まれなかった物語などない、と言いたくなる。のだが、確かに、「聖書から生まれた」というテーマに、これ以上に相応しい本も他にあるまい。私が本作と出会ったのは、小学四年の頃。図書室で『天路歷程 光を求める心の旅路』（関根文之助訳、小学館、一九八一年）という児童向けのリライト版を手にとった。主人公は、^{クリスチャン}基督者という男である。彼は一冊の本（勿論、聖書のことだ）を読んで、巨大な「罪」という荷物を背負うことになる。絶望する^{クリスチャン}基督者の前に、伝道者という人物が現れ、「天の

国」を目指すよう言う……幼い私はたちまち、その物語に魅了された。そこにあったのが、お馴染みの聖書のイメージだったからだ。聖書に出てくる武器を使い、^{クリスチャン}基督者は戦う。道中、モーセが登場したり、ロトの妻の塩の柱が立っていたり……言うなれば、それは聖書の一大テーマパークなのだ！それもそのはず、作者のジョン・バンヤンは牧師であり、本作の文章はすべて聖書の箇所由来しているのだから。同時代のジョン・ミルトン『失楽園』と比較すると、バンヤンはそもそも文学的な素養がある人間ではなかった。だからこそ、聖書を読み込み、誰より使い熟して、文学史上類を見ない作品を生み出すことができた。本作は「小説」という文芸ジャンルの始祖の一つとなり、トールキン『指輪物語』や

C・S・ルイス『ナルニア国物語』などのファンタジー小説、現代のRPGゲームの嚆矢となった。その影響力は、世界中で聖書に次いで翻訳された、とされるほどだが、なぜか日本での一般的な知名度は皆無に近い。芥川龍之介が「愛読書の印象」という随筆で、「名高いバンヤンの『天路歷程』なども到底この『西遊記』の敵ではない」と語っていることから、大正の知識層には一応「名高」かったのかもしれないが、少なくとも現代の文学者やクリスチャンで『天路歷程』を愛読する、という人はついぞ聞かない……と思っていたら、数年前、リービ英雄氏が『天路』（講談社、二〇二一年）という作品を発表され、今年の三月から、池澤夏樹氏が『すばる』（集英社）上で『天路歷程』という連載を開始された。

私もまた、最新小説『携帯遺産』（朝日新聞出版）では本作にオマージュを捧げている（カバー装画にはずばり『天路歷程』の地図を使った）。願わくは、より多くの人が『天路歷程』の巡礼の旅に出られんことを。

次はハーマン・メルヴィル『白鯨』。ドストエフスキー『カラマゾフの兄弟』とも迷ったが、こちらはゾシマ長老の説教の部分だけ読んで貰えたらいいし、既に多くの人が読んでいると思うので。対する『白鯨』は、名前は聞いたことがあっても、実際は読んだことのない本ランキング第七位（鈴木調べ。ちなみに一位はブルースト『失われた時を求めて』、二位は紫式部『源氏物語』、三位は……）。その割に、好きな人は兎に角好きで、かくいう私もその一人である。実はこれ、聖書と

シェイクスピアから生まれた小説なのだ。主人公の名はイシュメール。老船長はエイハブ。ここから既に聖書模倣が始まっている。途中で、唐突にシェイクスピア劇を思わせる、科白が始まり、独白が挿入される。この感じ、すぐよく分かる。というのも、私自身ずっとそういうふうにな小説を書いてきたのだ。小四で聖書を通読し、小六でシェイクスピアと出会って以来、私はいつも構成や精神性は聖書を、表現や人物造形はシェイクスピアを基に、一冊の本を作ってきた。これでは到底他人に読んでももらえない、と薄々気が付いてはいたが、気が済むまで書き、大学に入ってから改めて思想的・文学的な基礎固めを始めた。そうして何とか小説家になった。とはいえ、未だにあ

の二刀流時代が懐かしくもあり、当時の作品を読むと、その無手勝流ぶりが羨ましい。『白鯨』はそんな私の、ありえたかもしれない未来を先取っていた。

最後に、定番ながらウンベルト・エーコ『薔薇の名前』を挙げないわけにはいかない。中世の修道院を舞台に、『黙示録』に準じた連続殺人事件が起こる……というあらすじは、巷に溢れるオカルト本やB級クライム映画めいて聞こえるが、そうした類の作品は皆、本作を目指して失敗したのであって、本作自体は断じてそういう物語ではない。中世史の専門家が、持てる限りの知識を総動員し、しかし生来の遊び心は失わずに、究極のエンターテインメントとして書いたのが本作だ。惜しむらくは、未だ文庫化されることなく、単行本が上下巻合わせるとかなり高価



『天路歷程 正篇・続篇』

J. バニヤン：著
池谷敏雄：訳
新教出版社
1976 年、1985 年
B6 判
1,980 円

な点で、そのせいで私も手に取るのが遅れた節がある。が、『構造と力』も『百年の孤独』も文庫化された。いずれきつと文庫化されるだろう、と信じて待ちつつ、今はやはり単行本上下巻を買い揃えて、その知の迷宮を堪能しよう。本作で重要なモチーフとなるのが、写本という営みだ。我々はグーテンベルク以後の世界に生きており、聖



『白鯨 モービー・ディック 上・下』

ハーマン・メルヴィル：著
千石英世：訳
講談社
2000 年
A6 判
2,640 円

書はどれも同じように読むことができないが、当時の聖書はすべて一字一句人の手で書き写され、限られた人間にしか読むことはできなかった。私はいつも、自分の手元にある一冊の聖書が、どれほどの人の手を経て、自分の手に届いたのか、ということ想像するたび、神の愛を実感する。

色々な本を紹介してきたが、結局一番は聖書を読むことだ。当然ながら、これ以上によく書けた本はない。つい先日「ヨハネの福音書」のラストを読んでいた、はあく格好良すぎるでしよ、と溜息をついてしまった。今は「ガラテヤの信徒への手紙」を読んでいる。パウロの筆致の「近さ」と言ったらもう……。これからも、聖書と格闘しつつ、小説を書いていきたい。



『薔薇の名前 上・下』

ウンベルト・エーコ：著
河島英昭：訳
東京創元社
1990 年
四六判
2,530 円

「教会は初めてのあなた」と 教会をつなぐ本

〈評者〉 田中伊策



教会は初めてのあなたへ
32人の牧師からの手紙
小林よう子編



この本は、クリスチャンではない方が、「私も教会に行つていいんだ」ということを伝える本です。

「教会ってこんなところ」「教会にいるのはこんな人」「キリスト教の教えあれこれ」「あなたは招かれています」という4章立てになっています。しかし、それを系統立てて説明しているのではなく、32人の牧師が「さまざまな人を受取人として思い描きながら書いた手紙」（5ページ）として記されています。では、教会員や牧師向けではないか、というところでもありません。ここには信徒にも牧師にも訴え、あるいは問いかけている事柄もあるからです。

手紙の差出人である32人の牧師が相手の課題や悩みに寄り添い、自分の弱さ、小ささをさらしながらつながろうとしている姿は、きっとそれぞれの教会での牧師の姿でもあるでしょう。そこには牧師の働き的一端があります。執筆

された多くの牧師が「教会で待っていますよ」と教会につながるかとされています。

一方で、「私たちは教会に人を招こうとするけれど、実際に来られたときに、教会は受け止める準備ができていますか」と問いかけてもいます。ある手紙にこんな言葉がありました。「あなたが教会を訪ねて来られたのは、神さまがあなたを招いてくださっているということと同時に、なかなか動こうとしない教会に、神さまはあなたのような人を遣わしてくださったのかなと思います」（34ページ）。

さまざまな課題や悩みを抱える方を受け止めるためには想像力と学びや具体的な備えが必要です。その点で言うところの32通のバラエティーに富んだ手紙は想像力をかき立てます。進学のために故郷を離れる若者、施設に入られた高齢者、恋人が神さまを信じて戸惑っている方、子育て真っ

最中の方、ひきこもりの方、ハンディキャップのある方、自分の性のありかたについて悩んでいる方、ミッシヨンスクールに通っている方、家族を天に送った方……。教会にとつてそのような方を受け止める準備をすることと「教会にいらつしやいませんか」と招くことは両輪だと思わされます。この本は、教会にも向けられています。

以前、私たちの教会の取り組み（生理用品の無料配布・中高生の居場所作り・同性婚の結婚式・生まれてくることのできなかった命の葬儀）に興味を持ったコミュニティラジオに出演しました。そのときパーソナリティから「教会つてクリスチャンが行くところですよ」と聞かれたので、「いいえ、誰でも来ていいんですよ」と答えたら「へー!」と心底驚いておられました。教会というところ

は自分とは関係のない場所、というイメージのあるこの国で、本書は「教会はあなたに関係ない場所ではないよ。あなたの課題や悩みを受け止めるよ」と伝えているのです。

そんな教会の敷居は低くしておきたいものです。クリスチャンの友達によつて教会と出会い、後に牧師になった方がこう書いています。「Kくんがこんなふうに教会の扉を開いてくれたから、私もイエスさまに出会うことができました」（46ページ）。閉まっている教会には入れません。その扉は教会の内側からしか開けられません。この本を通して、教会は初めての方が、教会を訪れ、教会もその方をしっかりと受け止める。そんなことを期待します。

（たなか・いさく＝日本バプテスト連盟直方キリスト教会牧師）
（四六判・一二二頁・定価一四三〇円・日本キリスト教団出版局）

信仰の旅路

伝道メッセージ集

小島誠志



四国ので、日本基督教団で、長年伝道に尽くした熟練牧師のメッセージ集。反撥されても風雨について前進する小舟のように、ひたむきに聖書を語り続けてきた著者の珠玉のメッセージ22編を収録。
四六判 並製・200頁・定価2640円

信仰生活ガイド《第3期／第1回配本》 越川弘英 編

教会、その破れと再生



『信徒の友』記事を書籍化する、信仰生活入門シリーズ第3期。人間的な争いといった「破れ」を経験した教会はどのような道筋で再生するのだろうか。
四六判 並製・128頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

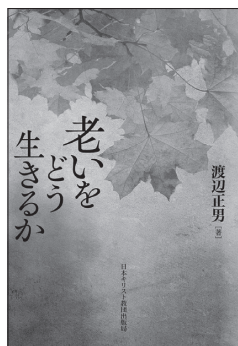
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

「老いをどう生きたらよいのか」 と悩む、すべての人に

〈評者〉 棟居 勇



老いをどう生きるか
渡辺正男著



著者渡邊正男牧師は、二〇〇九年引退後『老いて聖書に聴く』『夕暮れに、なお光あり。』（共著）の二書を出版しています。自身「老い」を生きる者として、その現実の中で改めて老いに伴う変化を直視し、問題・課題を整理し、信仰的な道筋をつけてみたというのが、この度の『老いをどう生きるか』の出版となったと言えるでしょう。「老い」の中に置かれて「どう生きたらよいか」と行き悩んでいるみなさんに「是非に」と強くお勧めしたい書物です。

著者とは大学時代からの縁を持ちますが、その関係から著者の今日までの人生の行程を顧みると、そこに一貫しているものは、主に対しての真摯な求道と伝道への熱い思い、そして信仰を共にする人々に対する共感と心遣いです。その生涯を通じて内に抱き、育んできたもののすべてに形を与えたものが、この度の著作となったと言えるのではない

でしょうか。人生の終わり近くにあって行き悩む人々に、自らの経験、考察を提供しながら、「私はこのように思い、考えます。あなたはどうか考えますか。さあ、時に困難と迷いを伴う老いを一緒に生きて行きましょう」と語りかけているのが、この書物だと言えるように思います。

書物は、二部構成で、第一部「老いをどう生きるか」、第二部「あなたはあなたなりに」となっています。

第一部は、「老い」を総括的に捉え、導きになる数多くの聖句（よくこんなにも多くの聖句が、と思う）を紹介し、御言葉によって生きる方向づけを内容としています。これ程丁寧で示唆に富んだ内容に初めて出会う思いです。

第二部には、ハンセン病療養所多磨全生園内「秋津教会」で高齢信徒に語られた説教が収められています。

渡邊牧師が多磨全生園秋津教会で説教するようになった

経緯については、文中にも紹介されていますが、私の求めによるものです。私は一九六一年神学生時代に神学生誰もが課される夏期伝道実習で、四国高松にあるハンセン病療養所大島青松園^{せいしやうえん}内の教会に遣わされ、島内に一カ月半滞在しました。その関係からその後すぐハンセン病伝道団体「好善社」の社員となり、以来六〇年を越えて今日までなおハンセン病療養所とそこに生きる人々との関わりを与えられています。その関係で、同社代表理事時代、渡邊牧師が青森のハンセン病療養所教会にも関わっていたことを知っていた私は、引退した渡邊牧師が東京・府中市に住まいを得たことを知り、早速秋津教会礼拝への月一回の協力をお願いしたのでした。渡邊牧師はその求めに快く応じられ、一六年に及ぶ講壇のご用となったのでした。

ハンセン病療養所に在住する人々は、かつての国の施策によって、言語に絶する過酷な生活を強いられた人々です。今はその悪法は廃止され、病氣も完治したみなさんが平穏な生活を重ねていますが、渡邊牧師の説教は、その人々に対し、しっかりとした釈義を踏まえながらも、平易で分かりやすい、時に聴く者たちに同意を求めるといって、求道の姿勢を聴く者と共に分かち合おうとする性格をもつものでした。その説教に、私たちには計り知れない苦難の人生を生きてきた療養所教会のみなさんは、いつも変わらず静かに耳を傾け、喜びをもつて教会を後にしていくのでした。

監事)

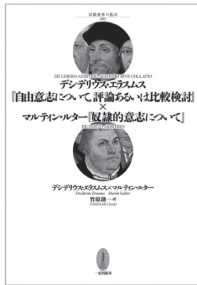
(四六判・一七六頁・定価二二〇〇円・日本キリスト教団出版局)



『自由意志について、評論あるいは比較検討』×『奴隸的意志について』

宗教改革の争点 00

エラスムス × ルター
竹原創一*訳・解説



宗教改革によって提起された様々な論争主題のうち「自由意志論」を、エラスムスは「解き明かし難い謎」「ただ一つの教義」とよび、ルターは「要点」「基軸」「急所」とよんでいる。ルターは本書をいつまでも残したい自分の著作の一つに挙げている。

A5 判・上製本
定価 9,580 [本体 8,800 + 税] 円
ISBN 978-4-86325-166-3

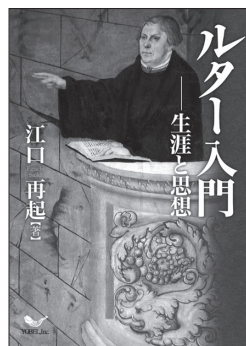


株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

＋本・批評と紹介

教科書や事典の次に薦める入門
書——平面から立体のルターへ

〈評者〉 高村敏浩



ルター入門

生涯と思想

江口再起著



本書は、二〇一七年、著者がNHKカルチャーラジオ「歴史再発見」の講師を勤めた際のテキストに加筆修正したものである。その執筆背景から、本来、クリスチャンではない人を聞き手・読み手として意識したものであることがわかる。本書は、教科書や事典を通して分かるルターよりも、もう少し深く彼について知りたいと願うすべての人にとって、入門書として最適である。

多くの日本人にとって、ルターについての知識とは、高い教科書で触れる程度か、百科事典で紹介されているくらいのものであるのではないだろうか。ルターの人物や神学、思想を紹介するものとしては、ここ数十年に限ってみても、徳善義和や倉松功、今井晋などの著作が思い浮かぶ。二〇〇〇年代に入って、トーマス・カウフマンやステイブ・ポールソンの著作が翻訳された。これらは、「ルター

とは誰か、どういう人だったのか」という問いに答えようとするものである。しかし、現実には、日本人読者にとって、入門書としては敷居が高いのではないだろうか。

入門書の難しさは、何を取り上げ、また、何を省略するかということであろう。専門家の多くは、入門レベルで書いているつもりであっても、情報過多によって読者を迷子にさせてしまうからである。だからと言って削ぎ落し過ぎてしまえば平面的になり、ステレオタイプなつまらないものとなる。本書は、一章の『九十五箇条』の紹介を導入に、ルター登場の背景である中世後期の紹介を含むルターの生涯を続く四章、さらに「恵み」と、聖書を含む「神の言葉」理解といったルターの神学思想に二章、「ふつうの人」としてのルターと、クリスチャンではない多くの人が悩むカトリックとの違いにそれぞれ一章、ルターの功罪を含め

た近代への影響に二章、日本の宗教思想との対話の架け橋として親鸞の思想との比較に一章、そして私たちの生きる今との関わりに一章の、全十三章からなる。ラジオ番組のテキストだったということもあるのだろう、短い文章でテンポよく書かれていて、分かりやすく読みやすい。著者のこたわる「恩寵義認」以外の用語は、基本的にはこれまで用いられ、親しまれてきた表現や語彙を使い、定義の更新が必要などころでは丁寧に説明している。ルターを知る上でおさえておかねばならない出来事やテーマを取り上げ、予備知識のない人でも分かるように簡潔に説明しつつ、同時に、弁証法に代表されるルターの神学が持つ逆説的な緊張感を保持して伝えようとしている。これらの試みは、立体的に描き出されたルターとして成功している。

著者の江口再起氏は、日本福音ルーテル教会の隠退牧師であり、東京女子大学でも長く教えた。同教会の牧師を父に持ち、幼いときからルーテル教会で育ったため、自分のアイデンティティとの葛藤や、ルターやルーテル教会への反発も経験している。そのためであろうか、十六世紀のルターをそのまま現代に持つてくるのではなく、文化や社会問題、宗教思想や日本という私たちの生きる文脈においてルターを捉え、対話しようとするのである。

すべての人が満足することは不可能である。しかし、著者が意図するところの入門書としては、自信をもって誰にでも薦めることのできる良書である。

(たかむらとしひろ・日本福音ルーテル三鷹教会牧師)
(A5判・二一六頁・定価一九八〇円・ヨベル)

ヨベルの新作 / 既刊案内



ほんとうの自分に出会うとき
岩本遠億 [著]
新書判・二六頁・一三〇〇円
1320円

今、さまざまな辛さや生きづらさを覚えて
いる人への 慰めと励まし、神さまが
注がれる力！
ルカの福音書説教集既刊書——
1 神はあなたの真の願いに答える 1320円
2 聖霊は愛を完成する 1320円

岩本遠億 [著]
ルカの福音書説教集 3

小林重昭 [著]
「三要文」講解
推薦文 錦織寛牧師
十戒・主の祈り・使徒信案
これほど真正面から、愚直に「三要文」に
挑んだ牧師がいたのだろうか？
キリスト教信仰の3つの柱とも言うべき「三
要文」を、日々の暮らしの中に優しく溶け込
んでいく神の愛の多彩な使信として語らんと
欲す。81歳の生涯を終えた牧師が遺した珠
玉の説教集。A5判上製・五〇〇頁・三〇八〇円

小林重昭 [著]
「三要文」講解
推薦文 錦織寛牧師
十戒・主の祈り・使徒信案
これほど真正面から、愚直に「三要文」に
挑んだ牧師がいたのだろうか？
キリスト教信仰の3つの柱とも言うべき「三
要文」を、日々の暮らしの中に優しく溶け込
んでいく神の愛の多彩な使信として語らんと
欲す。81歳の生涯を終えた牧師が遺した珠
玉の説教集。A5判上製・五〇〇頁・三〇八〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

イエスの体温を感じて

〈評者〉 鈴木道也



わたしを誰と呼ぶか

マルコの福音書Ⅱ

大頭眞一 著



本書は、大頭眞一先生によるマルコ福音書の説教集の第二巻です。二〇二〇年六月二日から十二月六日にかけて語られた講解説教が収録されています。範囲は三章三一节から八章三八節まで。第一巻と同様、礼拝の中で実際に語られたものを文字起こししています。

本書の説教が語られた二〇二〇年の下半期は、まさにコロナ・パンデミックにより国内外が大きな混乱に陥っていた時期でした。懸命に感染対策に努める中、多くの教会が会堂での（対面での）礼拝を休止せざるを得ない状況に追い込まれました。本書においても、礼拝は対面とYouTubeでの配信の併用、あるいは対面は休止し配信のみで行われています（大頭先生が怪我をされ、療養のためオンラインで説教されていた時期もあったとのことです）。私も二〇二〇年当時、自分が教会でどのような説教を語っ

たかを思い起こしつつ、本書を読み進めました。

本書において大頭先生が一貫して語っているのは、イエスの到来により、神のご支配はすでに始まっているという肯定的なメッセージです。困難な現実の中にあっても、神の国は成長している（六三頁）。だから心配はいらない。《今は喜びの時、喜ぶべき時》なのだ、と（三七頁）。また、コロナ下の《今だから味わうべき恵みがあり、今だからなすべき使命》があるとも語っています（九三頁）。

先が見えない状況の中で、牧師がじつくりと腰を落ち着けて、そのように一貫したメッセージを語り続けてくれることで、教会の方々は——会堂で、パソコンの前で——どれほど支えられ、勇気づけられたことでしょう（私も書評を執筆するにあたり、実際の礼拝動画をYouTubeで幾つか視聴してみました。大頭先生の落ち着いた、ゆっくりと

した語り口はとても安心感を与えられるものでした。

大頭先生のメッセージがただ楽天的なものであるかという、それは少し違うように思います。あの時、先が見えない不安が私たちをとらえていました。いわば、一歩先を薄暗闇が覆っているような感覚でした。希望の光をなかなか見出すことができない。大頭先生もそのような現実を前提としつつ、だからこそ、一歩一歩、イエスさまの背中を見つめながら、共に歩んでいこうと呼びかけています（二六九頁）。何より、人となられた神の子、イエスさまの体温を感じながら――。《主イエスの胸の中に留まって、主イエスのみことばを聞き続け、主イエスの体温を感じ、主イエスの胸の鼓動を感じ、みことばを聞き続け、み胸に留まり続けたら、私たちの鼓動がまるでイエスさまの鼓動と

同期するかのようになる。……》（四三、四四頁）。

説教集第一巻から、大頭先生は一貫して、イエスの胸の内に留まることの大切さ、その体温を感じることの大切さを語っています。それは希望というより、熱としての光を語っているのだと私は受け止めました。たとえ希望の光は見出すことができなくても、今この瞬間、私たちは熱を感じることはできる。暗闇の中でも、イエスさまの体温を感じ取ることができる。かつて人として生きておられ、いまでも私たちと共におられる御子イエスの胸の内に包まれる中で、二〇二〇年から五年が経過し、通常通りの生活が取り戻されている今、改めて当時のことを思い起こしつつ、共にじっくりと味わいたい説教集です。

（すずき・みちや 日本基督教団花巻教会牧師）
（新書判・二八二頁・定価一六五〇円・ヨベル）

ヨベルの本 新刊案内

大貫隆「著」

四六判上製・四一六頁・三〇八〇円

福音書の隠れた難所

旅に難所はつきもの。超えてこそ見える絶景！ イエスはなぜ禿鷲と死体を語るのか。ナゾラ人とは何者か。自身を「食い物」にせよとの人肉嗜食発言はどう解すれば良いか……。福音書に立ちはだかる5つの「難所」を取り上げ、研究者生涯を傾注して取り組んできた成果が結晶！

大貫隆の隠れた難所

反響

技術時代における宗教、キリスト教

竹田純郎「著」

金城学院大学名誉教授

技術時代における宗教、キリスト教 竹田純郎

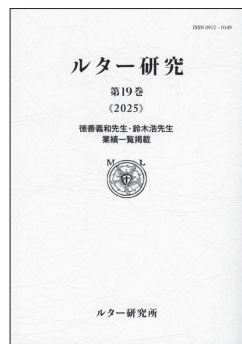
ただ巻き込まれるのか。抗する道はあるのか。現代世界を覆い尽くす数々の戦争や侵略行為は、既存の宗教によって正当化されて留まるところを知らず、人も自然も滅びの瀬戸際に立たされている。ルオーの絵画「キリストと漁夫たち」へと至る深い思索からその活路を鮮やかに描き出す。

A5判・二一六頁・予価三〇〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
https://yobel.co.jp (税込)

教会宣教と神学の 切り結びをめざして

〈評者〉
宮本 新



ルター研究
第19巻《2025》
ルター研究所編



ルーテル学院（ルーテル学院大学／日本ルーテル神学校）の附属機関であるルター研究所（江口再起所長）は今年で開設四〇周年を迎える。第一九巻はこの節目の年に刊行された研究紀要である。研究所は設立当初から大学・神学校を基盤にしたところに特色がある。「神学者ルター」と「教会人（信仰者）ルター」という二つのアプローチを併せもっていたことになる。

このことは研究所の活動も特徴づけてきた。一方で、日本語でルターの人と思いをより深く理解するために著作集の刊行事業をはじめ、ルターその人のテキストにあたり歴史研究に向かう道筋が切り開かれてきた。他方で、それがこんにちの教会と宣教にどのような関係と意義があるのか、課題を含めて研究が重ねられてきた。これまで開催されてきたおびただしい研究会やセミナー、公開講座など、この

線にある。振り返るとこれら諸活動に今よりもずっと多くの人たちがかわり参加し、また熱気があった時代である。このことは個別の研究所や教会にかぎらず、広く国内外のキリスト教界の潮流と合致する。第一九巻の諸論稿は、それぞれの論者の研究成果と同時に、より大きな潮目を反映しているため、ルター研究の枠を超えて、さまざまな読み方と相互理解の進展に開かれている。紙面の都合上、個別の論評にまで及ばないが、目次を一瞥するだけでも示唆するところを汲んでいただけるはずである。

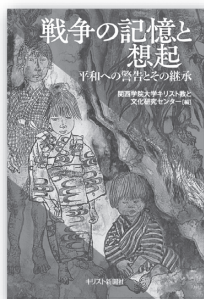
冒頭には二〇二三年に相次いで召天された徳善義和初代所長とつづく鈴木浩所長の「経歴と業績」とエッセイを掲載している。その他の掲載論文は以下のとおりである。

・トマーシュ・ハリク氏「キリスト教は新たな改革期の戸口に立っている——ルーテル世界連盟第13回総会基調講

戦後80年の今こそ

戦争の記憶と 想起 平和への警告とその継承

関西学院大学
キリスト教と文化
研究センター◎編



戦争体験者の時代が終わろうとする今、薄れていく記憶をどのように保存し、想起していくのか。凄惨な記憶から生まれた声を未来へとつなげていくために何ができるのか。

国内外の多様な想起の現場からその知恵を探る8つの論考。

四六判・並製・168頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

〒112-0014 東京都文京区関口1-44-4 7F
03-5579-2432 support@kirishin.com

演」全文訳および解説「ハリク氏とキリスト教の未来」宮本新／・「ルターの聖餐論と今日の課題——ルターに聞き、ルターを問う」立山忠浩／・「隠れたる神の目に立つ——ルターとハイデガー」江口再起／・「新しい歌を始めよう——ルターの賛美歌誕生をめぐって」伊藤節彦／・「すべての神学は文脈を持つ——『神論』としての神の痛みの神学」宮本新／・「旧約聖書からの説教と宣教——RCLの第一日課をめぐって」後藤由紀

神学と教会宣教との関係は一筋縄なものではなく分け入るならば、話者がそれぞれをなにをどう理解しているかによって、またその人がキリスト教信仰にどう向き合っているかによって、その内容も論調も変わってくる。しかし現代神学を考える際に新たな局面も現れているように感じられ

る。教会なるものが神学において批判的に取り上げられることは当然でありまた健全と思われていたところから、教会の実体が弱まり、宣教が低迷する流れと、学術としての神学が専門化・細分化していく方向性があわさると、意義深い緊張関係というよりも、むしろ互いの関心の領域が別のところに向かい、もはや切り結びも衝突もない無関係な原野が広がっているという印象である。基本的な問いは、古典的であれ現代的であれ、教会という文脈の消失についてである。教会抜き神学あるいは神学抜きの教会が一体どの程度まで可能なのか。ルター研究所に通底する研究課題であり、第19巻の諸論考はいずれもがそれを反映し、次の神学と宣教の展開を探索する試みにもなっているとも言えるだろう。

(みやもと・あらた) ルーテル学院大学准教授・日本ルーテル神学
校校長 (A5判・二五六頁・定価二二〇〇円・ヨベル)

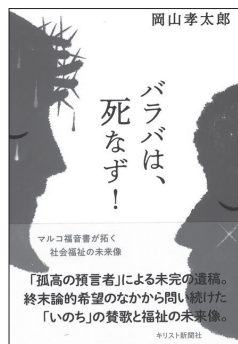
絶望のなかの希望！

〈評者〉横山 穰

われ山にむかいて目をあぐ わが助けはいずこよりきたる
や わが助けは天地をつくりたまえる主よりきたる（詩編
一二一篇）

筆者が一九八二年に米国留学へ旅立つ際、授洗牧師であつた著者が色紙に書いた聖句である。「主（神）」は「わが助け」であり、そこに希望がある。

ところで、本書は明日（未来）への遺言である。タイトルの『バラバは、死なず！』は、イエスの十字架上の死と引き換えに命を救われたバラバのことである。彼はローマの圧政に対して反逆し、人殺しをしたゆえに死刑に処せられる運命であつた。しかしイエスの死が贖罪となつて、自由の身となつたのである。「絶望のなかの希望」を象徴するのが、バラバの人生だつたのである。著者はバラバの苦



バラバは、死なず！
マルコ福音書が拓く社会福祉の
未来像
岡山孝太郎著



難と苦悩に満ちた人生に自分を重ねる。絶望するしかない
極貧生活の中で、「人とのつながり」を通して生きる希望
を見出したのである。

著者は、本書のなかで「希望というものの現実的根拠」と「共生社会の将来を拓く力としての希望」について明らかにしようとした。希望は、「単なる人間的願望や期待ではなく、神の臨在によつて注がれる将来を拓く力」とし、「弱さ、愚かさ、無力さのゆえに苦難を強いられ、絶望に喘ぎながらも約束を信じて希望を失わないこと」は、新たな共生の道を拓くことを可能にするという。

そして、著者は独自の福祉哲学（福祉思想）として、福祉の目的を「人間の絆の創造」の視点から見つめ、人間が尊厳をもって生きるための条件として、共感、連帯、共生、信頼と希望、愛と悲哀を挙げている。以下は、珠玉のこと

ばである。

「福祉はその根底においては、常に人間の尊厳と自由に深くかわっている……人間疎外や孤立が生じるときに『新しい連帯の基盤は何か』が繰り返し問われ直されなければならない」「根本的な福祉実践は追い詰められた人間の苦難や孤独への共感と連帯である。それは『顔の見えない支援』ではなく、疲労と孤独の中に落ち込んだ人の『肩を抱きしめる』抱擁である」「人間福祉の本質は、他者に寄せる信頼と希望である。それば言い尽くしがたい深い哀しみ湛えた『愛』を示す……愛は『哀』に通じ、他者に注ぐひたむきで悲しいまでに切実な愛のかたちを意味する『悲哀』こそが福祉の本質である」「福祉は他者のいのちを『守ること、覆い尽くすこと』である」「福祉実践は、それ

が誰に対してであれ、徹頭徹尾、人間関係をもって始まり、人間関係をもって終わる……人間関係を構成する基本は『弱さ（ホダシ）を共生の絆（キズナ）とする』条件である。『ホダシ（弱さ）』を分かち合うことは、深い信頼の中で『未来』を育んでいく」

「福祉の実践は、〃自立の追求〃ではなく、〃共生の道を拓く〃ことが課題である……共生が自立を拓くのであって、決してその逆ではない。共生なき自立は幻想である……相互支援が社会正義の基盤である……共生なき自立は偏狭と差別をうみだし、人格の尊厳性を踏みじることになる」

本書は、生きること絶望した人々が、人とのつながりを通じて、再び生きる希望と勇気を見出す命の書である。

（よこやま ゆずる 北星学園大学教授
（四六判・一三三頁・定価一六五〇円・キリスト新聞社）

神学ダイジェスト138号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2025年6月発行
A5版128頁
定価638円（税込）

特集 カトリック教会における男性性

巻頭言 教会における公正な人
聖職者の独身制と性
男性性を再構築する神学
教会の中の男性性と性虐待
男性のための霊的同伴
司祭職を廃止せよ
ブーチンとロシア正教会のイデオロギー
日本の教会の女性感覚と男女協働
ルカ福音書のとえ話における内的独白

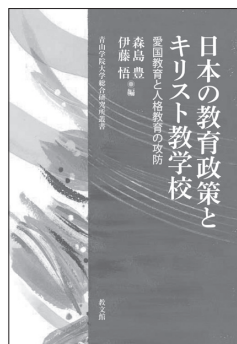
酒井 陽介
L・ボブ
H・アンダーソン
J・H・ルビオ
D・ピソン
J・キャロル
N・デニセンコ
石川 治子
P・セル

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

＋本批評と紹介

今、あらためてこの時代にあつて 人格の完成を目指す教育の根本を問う

〈評者〉**嶋田順好**



青山学院大学総合研究所叢書
日本の教育政策とキリスト教学校
愛国教育と人格教育の攻防
森島 豊、伊藤 悟編



本書は、青山学院大学総合研究所の研究ユニット「日本の教育における伝統思想とキリスト教学校の攻防」の成果として出版された。

内容構成は、第一章「日本の教育政策とキリスト教界への浸透」（森島豊）、第二章「戦後日本と国家神道——天皇制の宗教的側面（島蘭進）、第三章「戦後教育制度の『デザイナー』田中耕太郎——その思想と教育勅語をめぐる」（島田由紀）、第四章「戦後のキリスト教学校は何と闘ってきたのか」（伊藤悟）、第五章「道徳教科化における思想的問題——『修身科』復活問題における天野貞祐と昭和天皇の関係」（森島豊）、第六章「キリスト教的な人格教育とは」（長山道）、第七章「キリスト教学校の攻防の可能性」（森島豊）となっている。

本書の主題の背景を正しく認識するために、先ずは第二

章の島蘭論文を精読し、天皇による祭政教一致の統治を現実させるための明治期における国家神道形成過程と、戦後の葦津珍彦に代表される「国家神道」復活を企図する人々の「見えない化」戦略を正しく認識する必要がある。以下では、順不動で評者に与えられた気づきを列挙したい。

第一章では、明治政府が、キリスト教を、共存と抑圧という方策で管理しようとした際、当時のキリスト教界指導者たちが、国体思想とキリスト教信仰は矛盾せず、むしろキリスト教は国民の道徳的教化に貢献するとの弁証をもって存続の道を見出そうとした功罪が鋭く問われている。

第五章では、文部大臣天野貞祐が、一九五一年の修身科復活に関わる国会答弁で「国家の道徳的中心は天皇にある」と発言した背景に、皇室と国民との関係を良くしたいとの昭和天皇の意向が、田島道治侍従長から伝えられた事

実が明らかにされる。象徴天皇による「内政干渉」の実態が、浮き彫りにされた論文として高く評価したい。その後の道徳教科化への歩みの背後には、常にこの天皇の意向が含意されていることを看過してはならないであろう。

第七章では、青山学院に関わりを持ち、「キリスト教信仰と国際的な感覚というキリスト教学校の重要な遺産」を継承した人々の戦時下抵抗の歩みが紹介されている。重要なことは、キリスト教学校が、この時代のなかで「国体思想」に抗うには、「国際的なネットワークと国内私立学校間の連携」を深めるべきであるとの指摘であろう。

第三章では、教育基本法制定の担い手であった田中耕太郎が、カトリックの自然法思想に基づき、教育の目的を「人格の完成」としたにもかかわらず、教育勅語を擁護する矛盾を犯したことが指摘される。それは戦後直後の混乱を防ぐべく「心情的・功利主義的な天皇・天皇制の理解を自然法思想に強引に引き寄せた」（一一五頁）結果で、後にこの見解は修正されることになるのだが、田中におけるこの「ぶれ」は、看過できないことのように思われる。

第六章では、田中耕太郎の見解とは切り離して「人格」「人格の完成」という言葉を取り上げ、日本と世界の文脈のなかで、語義的、思想的意味を精緻に吟味し、ドイツ

語の *Bildung*（陶冶・形成）を手がかりに、「神から与えられた像を追求し、それを回復し、神の像へと造りかえられていく」（二三三頁）終末論的なプロセスとして捉えなおすことが提言されている。「人格の完成」に関わる田中の見解を克服して、新たな神学的地平を切り拓いた貢献と言えよう。

第四章では、戦後の八〇年間を、①戦後教育の黎明時代、②教育大衆化の時代、③リベラリズム・国際化の時代、④第二の逆コースの時代、⑤高度デジタル改革時代に区分し、各々の時代のキリスト教学校の課題と闘いを明解に論じている。来し方を振り返り、これからの思い巡らす上で、大変有用にして適切な示唆を与えられる。

戦後八十年という節目の年に、欧米でも、日本でも、右派政党が台頭してくるなかで、本書が出版された意義は大きい。すなわち戦前戦後を貫いて日本のキリスト教学校が直面すべき課題が、「国体思想」にあることを剔抉しつつ、「教育勅語」から「道徳教科化」の流れに抗して、福音に基づく人格教育をこれからも貫徹することの意義を示した好著であり、まことに時宜に合った出版と言える。

（しまだ・まさよし）横浜英和学院理事長
（四六判・二八〇頁・定価二九七〇円・教文館）

問い続ける恵み

〈評者〉 渡邊洋子



人間とは何であるか

ヨブ記講解説教

及川 信著



本説教集には、二〇二二年一月二日から、二〇二三年九月十日まで、著者が仕える日本基督教団山梨教会の主日礼拝で説教した五十六篇の説教から二十一篇が収められている。また、冒頭に『ヨブ記』一章から三一章までの概略、途中、三二章からの説教の前には『ヨブ記』三二章から三七章までの概略がある。

その『ヨブ記』一章から三一章までの概略で、及川牧師は次のように鋭く語る。「ヨブ記は宗教が陥らせる欺瞞をよく知っています。神とはこういうものだ、人間とはこういうものだ、悪いことをすれば罰を受けるという『公式』を作り出し、その『公式』に神や人間を当てはめてしまふ。しかし、人間も、世界も、神も、理解したり、整理したりできないものではないでしょうか。……ヨブ記は、そういう『公式』に否を唱えます」。

この指摘が真実であるからこそ、ヨブ記からの講解説教は困難を極める。及川牧師は、第一回のヨブ記講解説教の冒頭で次のように語る。「私たちは、(中略)毎回、神様の語りかけを聴きたいと願っています。でも、(中略)ヨブ記には、人間が抱え込んでいる問題に関する多くの部分があります。そういう言葉から、『神様の語りかけ』を聴くことができるのか。毎回の礼拝において、説教は説教になるのか。そういう心配もあり、かなり前からヨブ記は読んでいましたけれど、説教する自信が持てませんでした。今も持てないのですが、始めないといつまで経ってもヨブ記の説教はできないので、とにかく始めます」(二六～二七頁)。これほど説教者が自身の説教の窮状を正直に説教の中で語ったことがあるだろうか。

「正直さ」——これが及川説教の何よりの魅力である。

この説教者は偽善的な言葉や気休めを語らない。自身も含めて人間の現実を、本質的な部分での確かな言葉でズバリと描き出すのが、この説教者の真骨頂である。本説教集に収められている各説教でも「人間の現実を語る」筆は冴えわたっている。紙幅の関係上、例を挙げることができないのが残念だ。是非、及川説教の中で語られる人間に出会っていただきたい。

この稀に見る正直な説教者は、連続講解説教、第一回にして「ヨブ記」の結論を、ヨブの在り方から次のように語っている。「神とは何か、人間とは何か。苦難を通して、ヨブは神に問いつつ、そのことを考え続けるのです。わからなくても、神や人間について考え続けること、それが『ヨブ記』の結論のような気がします」。この及川牧師の理解に評者も同意する。ヨブ記は、「神や人間について、神に問い続け求め、答えを求め続けることこそ、信仰だ」と語っているように思う。若き日のカール・バルトが第一講演「教会の宣教の困窮と約束」で語った言葉が思い起こされる。「聖書は、問う人間を求めている」（『説教塾紀要』24号「キリスト教会の宣教の困窮と約束」一七八頁より）。

及川牧師は、このヨブ記から発せられる問いかけを自身の問いかけとし、聖書の本質をもって、説教の中で答えよ

うとしている。ヨブ記の、時に混乱しているように思えるストーリーや難解な表現を、丹念に説得的に説き明かし、そこで問われている「問い」を浮かび上がらせる。そうして、この説教者は、キリスト・イエスを指し示す。目に見える人間のあり方を越えて働き、その人の命を救おうとされる「イエス・キリスト」を「真の神、真の人」として黙想し、キリストから見た人間を本来の人間として示す。キリスト・イエスによつて、ヨブ記の問いかけに答えている。及川牧師は、すべてを悟つて余裕綽々で説教しているのではない、寧ろ、毎回毎回、ヨブ記が投げかける鋭い問いと真剣に向かいあい、自分たちの問いとしている。そして、答えをキリスト・イエスの福音の出来事に求め、「今、自分たち教会に語りかける主の答え」に耳を澄まし、聞き取った言葉を語る説教だ。

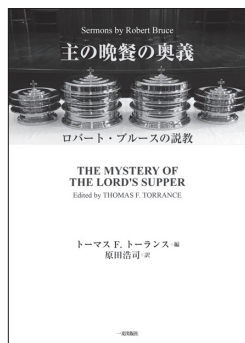
及川信牧師の「人間とは何であるか——ヨブ記講解説教」は、「ヨブ記の問いを自分たちの問いとして、主に問いかけ、今現在の自分と教会に主がどのように答えてくださるのか、聴きとる」という恵みのチャレンジに信仰者を招きいれる。是非、手にとつていただきたい。

（わたなべ・ようこ 日本ナザレン教団横浜教会牧師）

（四六判・二八八頁・定価二六四〇円・一麦出版社）

主の晩餐とキリストの現臨

〈評者〉 関川祐一郎



主の晩餐の奥義
ロバート・ブルースの説教
トーマス・F・トールランス著
原田浩司訳



今から18年ほど前、神学校入学直前の春に本書の訳者である原田浩司先生と私の父の3人でスコットランドを旅したことがある。レンタカーで各地を巡り、スコットランドにおける教会の歴史を辿る機会を与えられた。特に印象深かったのは、ジョン・ノックスが牧師として仕えたセント・ジャイルズ教会の早天礼拝に出席し、聖餐に与ったことである。10名ほどの小さな礼拝だったが、牧師が目の前でパンを裂き、一つの杯からぶどう酒を回し飲んで聖餐に与った。スコットランド宗教改革の舞台となった教会で、キリストの現臨に与るといふ恵み深く得がたい経験だった。本書はスコットランドの代表的神学者トーマス・F・トールランスが1958年に編纂し、2005年に新装再版されたロバート・ブルースの聖餐に関する説教集である。そこにはロバート・ブルースがセント・ジャイルズ教会で

実際に行った5編の説教が収録されている。ロバート・ブルースはこれまで日本ではほとんど紹介されてこなかったが、近年彼の聖餐論と説教はスコットランドで再評価されているという。ロバート・ブルースは1587年、ジョン・ノックスの後継者としてセント・ジャイルズ教会の牧師に就き、礼拝説教の働きに忠実に仕えた。元々は法律家を志していたが、ジョン・ノックスの語る説教に強い影響を受け、セント・アンドリュース大学で神学を学んだ。本書の冒頭に収録されている略伝の中でロバート・ウドローはブルースを次のように評している。「これまでスコットランドに登場した牧師たちのなかでも、最も敬虔で、力強い牧師の一人でした。(中略)スコットランドの宗教改革運動に、ノックスの指導下でも得られなかった安定と持続性を得られたのは、総じて言えば、ブルースの指導下での

ことでした」(9頁)。また編者であるトールランスはブルースの語った説教はスコットランド教会におけるサクラメントの伝統の核心部であると評価している。トールランス自身、少年時代にブルースの説教集に養われ、エディンバラ大学のニュー・カレッジに入学してからは、彼が学んだ主の晩餐に関する講義内容の大部分がブルースの説教から示唆を受けたものだった。よって、私たちは本書に収められているブルースの説教を通して、宗教改革以来、スコットランド教会の中に脈打っているサクラメント、とりわけ主の晩餐の奥義と恵みにふれることができる。

本書に収録されているブルースの説教はいわゆる聖餐についての小難しい論文ではなく、礼拝説教として一般の会衆に向けて語られた、聖餐の奥義に関する説き明かしである。み言葉の説教を通して、聖餐のパンと杯がいかに恵み深い食事であるのかが生き生きと語られている。ブルースの説教を読むことによって、私たちの目の前に、甦りのイエス・キリストが立体的に立ち上がってくる。

ブルースが5編の説教を通して強調しているのは、第一に聖餐におけるイエス・キリストの現臨である。そして、み言葉とサクラメントの結びつきがいかに大切なのか、さらには私たちが聖餐に与るには、信仰と悔い改めが不可欠

だということである。ブルースは「御言葉と切り離された典礼の執行を、わたしはサクラメントと呼ぶつもりはありません」(41頁)、「信仰のほかに、あなたがたとキリストを結び合わせる媒体などありません」(48頁)と述べている。

差し出されたパンと杯を前に聖霊が降り、信仰によってそれに与るとき、私たちはキリストの体を食べ、血を飲むのである。このことを通して私たちはキリストの体によって養われ、キリストの血によって健やかさが保たれる。キリストの現臨と共に私たちはキリストと一体とされる。礼拝におけるみ言葉の説教とサクラメント、さらにそこに働く聖霊によって、キリストが現臨される恵みを思わずにはおれない。み言葉の説教、そして聖餐という主が定めたもう奥義を通して、教会がキリストの現臨の喜びに生きるとき、教会はより生き生きと大胆にイエス・キリストを宣べ伝えることができるのではないか。本書は今の時代にあつて、教会に宣教の喜びを増し加え、私たちを真実に生かすみ言葉とサクラメントの恵みを新たにしてくれる。牧師にも信徒にもぜひお奨めしたい1冊である。読み返すほどに聖餐の奥義にふれることができるだろう。

(せきかわ ゆういちろう) 日本基督教団井草教会牧師

(A5判・二五〇頁・定価二四二〇円・一麦出版社)

■ヨベル

福音書の隠れた難所

大貫 隆著

旅に難所はつきもの。超えてこそ見える絶景！イエスはなぜ禿鷲と死体を語るのか。ナゾラ人とは何者か。自身を「食い物」にせよとの人肉嗜食発言（ヨハネ福音書）はどう解すれば良いか……。福音書に立ちはだかる5つの「難所」を取り上げ、研究者生涯を傾注して取り組んできた成果が結晶！

四六判・416頁・定価3080円

現代において信仰はいかに可能か

——ヘーゲル宗教哲学の提示するもの

鈴木智久著

キリスト者に聖書のない人生が考えられないように、私にヘーゲルのいないキリスト教は考えられない。カトリックの一信徒として、市井の哲学研究者として、ヘーゲルとキリスト教について考え抜いてきた著者が、その信仰と学究の思いとを注ぎ込んで編んだ渾身の書。現代においてキリスト教信仰はいかに可能なのか——この根源的な問いにヘーゲルをもって接近を試みた！

四六判・324頁・予価2000円

■日本キリスト教団出版局

ナウエンセレクション

新しい生き方

——イエスについての七つの手紙

ヘンリ・ナウエン著

渡辺順子訳

英 隆一朗解説

ナウエンによるキリスト教入門。手紙の形で、現代の私たちにとって、主イエスとは誰か、信仰生活とは何かを、丁寧に説き明かす。

四六判・160頁・定価2200円

イエスの死の意味

——旧約の犠牲祭儀から読み直す

C・A・エバハルト著

河野克也訳

「贖い」に関する疑問を、旧約の犠牲祭儀を手がかりに鮮やかに解きあかす快作。これを讀まずに「贖い」は語れない。

A5判・160頁・定価3300円

平和を受け継ぐ者に

——戦争証言・使命・祈り

奥田知志編

広島・長崎の原爆、沖縄戦、引き揚げ、本土空襲などの体験者の証言や戦後の平和への取り組みから、平和を築くためにするべきことは何か、あらためて考える。

四六判・144頁・定価1650円

みんなの説教入門

小泉 健著

説教者としてどう祈りの生活を形作るか、いかに説教を導

備するか。牧師のみならず、すべての信仰者のための説教入門。

A5判・144頁・予価1800円

星に導かれて

待降・降誕・公現

日本キリスト教団出版局編

月刊誌『信徒の友』に毎年掲載されたクリスマススのショートメッセージ集。み言葉に各執筆者それぞれの味わい深い例話を書き加え、主の降誕を祝う喜びへと導きます。

四六判・128頁・予価1400円

まぶねのかたえに

祈りのクリスマス・カレンダー

小島誠志編

月刊誌『信徒の友』に50年以上掲載されたクリスマススの祈りの中から25編を精選。12月1日より始めてクリスマス当日までの日々を、美しい写真と祈りの言葉が豊かにする。贈り物に最適。

A5判変・64頁・予価1400円

■新教出版社

神学と社会理論

——世俗的理性を超えて

ジョン・ミルバンク著

原田健二朗訳

INFORMATION

近刊情報

本書はポスト・リベラル神学を主張する「ラディカル・オースドキシシー」の烽火となった問題作。様々な現代思想との鋭い対論は極めて刺激的であり、またアングロカトリックの社会的伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがある。待望の邦訳。

A5判・700頁・予価8000円

■教文館

古代・中世キリスト教における女性イメージ

山田 望、袴田 玲、坂田奈々絵、山田 順編

キリスト教史学会監修

古代・中世のキリスト教世界において、女性はどうのように描かれ、どのように理解されたのか。時代を証言する図像や文献の間隙から、従来の研究とは異なる多様な女性像を丹念に抽出する気鋭の論考集。男性中心の歴史の背後に紡がれた女性たちの歴史を再発見する試み。

A5判・264頁＋口絵12頁・定価4070円

静寂の地へ

——キリスト教的観想の実践ガイド

マーティン・レアード著

柳田洋夫訳

神と人間の交わりの場である「静寂の地」に、私たちはどのようにすれば入ることができるのか? 「姿勢」「祈りの言葉」「呼吸」など、観想の具体的な実践方法を提示する。

四六判・240頁・3960円

書店名	郵便番号	住 所	電 話	ウェブサイト	URL	メー ル	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan.system_0530@aho.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区緋町1-13-6 エアオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区錦282 千葉リゾナントタワービル	043-236-1224	043-247-3072	http://www.keisanchristian.jp	keisan@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyodunkwan.co.jp	xbookss@kyodunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://naishindo-books.jimdo.com/	taisindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新宿区西早稲田3-18/MACOTEビル2F(通飯町門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区駒込1-44-4崇徳町2ビル1F(新内/外蔵門)	03-3260-5663	03-3260-5637	http://biblehouse.jp	tokyo@nikkiran.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biblehouse.jp/yokohama-cds/index.html	sksch@niva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋東区大田町316 味サキス(東區警察教納)	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunshala.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都府北区錦田町28 日本基督教団京都府教会(外蔵門)	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-jbs@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌町287 チャペルビル101F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacds.web.fc2.com/	ochinbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖徳社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区相生町4-5-12 神戸駅前ビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiran.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hselbun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/netsujane_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハルルヤ	862-0971	熊本市中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-halerya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacds.net	info@okinawacds.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日販販売部 Ⅱ 03-3260-5670 にご連絡ください。

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2025



主催 キリスト教出版販売協会

2024年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から全国のキリスト教書店員の投票により大賞が決定!

価格は10%税込

大賞決定



わたしの聖書物語

神さまの大きな計画

N・T・ライト 著

ヘレナ・ペレス・ガルシア 画

定価3,960円 日本聖書協会



受賞のことは

「わたしの聖書物語」がキリスト教書店大賞を受賞できましたこと、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本書を通じ、聖書の物語が一人でも多くの方に希望、力、そして救いを与えることを心より願っております。

一般財団法人 日本聖書協会

書店員のコメント

沖縄キリスト教書店 川上直美さん

創世記からヨハネの黙示録までの140の物語を通して神様の大きなご計画への理解が深まっていく聖書物語。子ども大人を問わずおすすめしたい1冊です。



第2位

聖書のお話を子どもたちへ

小見のぞみ 著

書店員のコメント

横浜キリスト教書店 高橋友彦さん
教会学校や幼稚園などのキリスト教教育に携わる方々への実践的な提案・手引きを平易な言葉で綴った良書。



定価1,540円
日本キリスト教団出版局



第3位

悲しみの向こう

希望の扉を開く言葉366

片柳弘史 著

書店員のコメント

清光書店 阿部文子さん
その日その日に開いてみると、自分自身が悲しみにうちひしがれている先に光が見えてくるような書籍です。



定価990円
教文館

他のノミネート作品 (タイトル50音順)

月曜日の復活

「説教」終えて日が暮れて
塩谷直也 著

定価1,540円
日本キリスト教団出版局



違いがありつつ、ひとつ

試論
「十全のイエス・キリスト」へ
鈴木道也 著
定価3,080円
ヨベル



コミュニティで支える

「心の育ち」
being《存在》を大切にすること
田中 哲 著
定価1,430円
いのちのこばと社



70歳からのキリスト教

聖書でたどる人生の旅
大澤秀夫 著
定価1,540円
日本キリスト教団出版局



信仰生活ガイド

祈りのレッスン
柳下明子 編
定価1,540円
日本キリスト教団出版局



不安と孤独の処方箋

病の教訓、聖書のヒント
石丸昌彦 著
定価2,640円
日本キリスト教団出版局



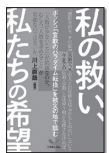
信仰生活ガイド

苦しみの意味
柏木哲夫 編
定価1,540円
日本キリスト教団出版局



私の救い、私たちの希望

ボッシュ『宣教のパラダイム転換』を被災の地で読む
川上直哉 編著
定価1,980円
ヨベル



キリスト教書店大賞フェイスブックページ
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして最新情報をGET!
QRコードで簡単アクセス! ➡



福音と世界

2025年9月号

特集Ⅱ教会の罪責告白（責任編集Ⅱ吉田新）

寄稿者Ⅱ佐藤司郎、朝岡勝、佐々木結
久保礼子、金迅野

◆書評「静寂者ジャンヌ」（鶴岡賀雄） ◆時評 洪
伊杵 ◆連載 わたしたちキリスト者は天皇制を
どう考えるべきか（石田学）／ぼやき牧師のさす
らい説教録（富田正樹）／異端者の世界航海（福
嶋揚）／証言としての旧約聖書（田島卓）／新
約釈義 ルカ福音書（山崎ランサム和彦）、他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

くのは寂しい限りです。

とはいえ、大型書店は量販店さながらで本や出版文化の香りがあまり感じられず、そうした雰囲気浸りたければ神保町の書店まで足を伸ばすしかありません。そんな書店がどれくらい残っているかわかりませんが。

先日、以前から気になっていた池袋駅に隣接するビルにある「本と珈琲 梟書茶房」に入りました。ここでは本のタイトルは伏せられた状態でブックマスターらによる短い

わたしの職場がある早稲田は早稲田大学がある大きな学生街です。アカデミックな街と思いきや、おそらく近辺で最後に残った中型書店が1年前に閉店してしまいました。こうして街からどんどん書店が消えてい

予告

本のひろば

2025年10月号

本・批評と紹介

（書評）N・T・ライト著『すべての人のためのルカ福音書』、J・ペリカン著『クレド』、喜多村得也訳『エーティンガー自伝』、H・ノーマン・ライト著『悲しみを道連れに生きる25のヒント』、関西学院大学キリスト教と文化研究センター編『戦争の記憶と想起』、村上純子著『子どもと育ちあうために』他

おすすめ文を読んでインスピレーションが働けば買って読んでみるという大変ユニークな取り組みをしています。また、本を自由に閲覧できるコーナーや読書に集中できるコーナーなど、さまざまな読書体験ができます。2、3回行きましたが、今度はどんな目的で行こうかと楽しみです。書籍以外の商品も売るヴィレッジヴァンガードやコーチャンフォーも健闘しているようです。どこも生き残りをかけて一生懸命です。

どうせ必死でやるなら、自分がつくる本をどうやったら多くの人に届けられるかをやはり今後は組織的、戦略的に考えて実行していく必要があるのだろうと、今さらながら切実に感じています。悲観はしていません。そもそも文書伝道と営業、パブリシティは、基本的には同じマインドでできると思っています。

（市川）

神に見出されている
私に出会う



病や孤独、人生の後悔や不安に悩むとき、観想はどのように助けとなるか？ キリスト教の聖人や賢人の言葉をたどり、心の奥深くで神と交わり、自分を受け入れ、他者に心を開く道を教える。

●四六判・238頁・定価3,960円

静寂の地へ

キリスト教的観想の実践ガイド

マーティン・レアー[D「著」 柳田洋夫「訳」]



新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典として、刊行以来多くの方々にご愛用いただいていた『ギリシア語新約聖書釈義事典』I、II、III(B5判)の縮刷版。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化し、以前の価格の半額で新装刊。

●A5判・1788頁・定価69,300円

ギリシア語 新約聖書釈義事典

好評につき重版！

『全巻セット縮刷版』

H・バルツ／G・シュナイダー ドイツ語版編集

荒井献／H・J・マルクス 監修

堀田雄康／川島貞雄／大貫隆 共編

ハイデルベルク信仰問答講話

7月刊行の好評既刊！

加藤常昭



宗教改革の戦いの中から生まれ、改革教会の枠を越え、世界で広く読み継がれてきた『ハイデルベルク信仰問答』。その日本語による最高の講解書。長く親しまれてきた名著を合本にして装いを新たに復刊！

●B6判・550頁・定価4,960円

世界の神秘としての神

有神論と無神論の論争における、十字架にかけられたお方の神学の基礎付けのために

E・ユンゲル「著」 佐々木勝彦「訳」

20世紀を代表する神学者ユンゲルの名著の待望の翻訳！

●A5判・732頁・定価14,080円



マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

英雄視を排してその素顔に迫る

マシュー・ハケネス著／槐田信子訳

8月25日



元Uボート艦長で一時はナチを支持した保守的牧師がヒトラーの教会政策に反発して強制収容所に囚われた。戦後は、ドイツの教会の罪責告白を主導し、また冷戦下に平和運動の旗手として活躍した。その激動の生涯をアメリカの気鋭の歴史家が辿る。 四六判・定価4400円

ロゴセラピーのレッスン

赤坂桃子訳 フランクルの21の知恵

7月18日



ロゴセラピーにおいて最も重視される「精神」。それを自分自身でケアするために、人生において大切な21のテーマに沿って、フランクルの著作から珠玉の短文を厳選し問いと省察を深める。コンパクトな生き方ガイド。 B6変・定価1870円

イエスへの祈り

大反響

主教カリストス・ウエア著／柳田洋夫訳

「主イエス・キリスト、神の子よ、私を憐れんでください」この短い祈りは東方教会で長く親しまれてきた射撃である。本書は、この祈りの歴史、その豊かな神学的意味、祈りの実践方法を正教会の第一人者が懇切に解説し、私たちを祈りの生活へと促す。 B6変・定価1870円



私が出会った人々

神の庭にて

大野恵正著 (おおの・よしまさ氏は活水女子大学名誉教授)

私という人間は、神の計らいにより、人生の道々で有名無名多くの人々と出会ったことにより形づくられてきたのだ。その恵みを感じ、懐かしい師、信仰の友、そして愛妻との出会いを滋味豊かに綴る珠玉の信仰随想集。 四六判・定価1980円



ユーモア実践

人生を楽しむ7法則 8月25日

宮平 望 (みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授)

A5判・定価1650円

ユーモアを醸しだすレトリック技術を網羅的に精査し、豊富な例示と共に七つの法則を導き出す。

既刊 ユーモア入門 人生を楽しむ7法則

A5判・定価2310円



本のひろば.com

